

リトルシニアの投球数制限に関する統一ガイドライン

日本リトルシニア中学硬式野球協会

投手の投球数制限に関しては、次に掲げるリトルシニア独自のガイドラインに基づくものとする。

- ① 1日最大90球以内とし、連続する2日間で130球以内とする。連続する2日間で90球を超えた場合、3日目は投球を禁止する。
- ② 3連投(連続する3日間)する場合は、1日目と2日目の1日の投球数を45球以内(1日目または2日目に45球を超えた場合、3連投はできない)とし、3日目の1日の投球数を40球以内とする。なお、4連投(連続する4日間)は禁止する。
- ③ 大会中は1日90球投球後、翌日投球を休めば3日目は90球の投球を可能とする。
- ④ 打席の途中で制限数に達した場合、当該打者の打席終了までは投球を認める。ただし、制限数を超過した球数は投球数にカウントし、翌日の投球可能数から差し引く。なお、連投最終日は制限数に達した時点で降板となる。【3連投(連続する3日間)の場合は適用しない】
- ⑤ 打者に対して投じた投球がボークとなった場合は、投球数にカウントする。また、12秒及び、20秒ルールに抵触して課せられたボールは投球数にカウントしない。
- ⑥ 申告敬遠は投球数にカウントしないが、敬遠に至るまでに実際に投じた投球はカウントする。
(例：1ストライク2ボールになり申告敬遠をした場合、それまでに投じていた3球は投球数にカウントする。)
- ⑦ 雨などで特別継続試合になった試合も投球数にカウントする。
- ⑧ 異なる大会であっても、連日投球する投手は、この統一ガイドラインに則った投球数制限で投球するようお願いします。

投手の投球数制限における投球可能数のケース

(投球数)

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目	第6日目	予備日
投手 A	90	40		※ 90 (95)	※ 35		90
投手 B	45	45	40		45	45	40
投手 C		80	50		40	90	
投手 D	50	第一試合 40		45	第一試合 25	40	
		第二試合 40			第二試合 20		
投手 E	45		45	85		90	40
投手 F	90		90		90		90

※ 投手 A の第4日目、打席の途中で制限数「90球」に達したが、当該打者の打席終了まで投球し、その日の投球数は「95球」となった。よって、投手 A の第5日目の投球可能数は「35球」となり、打席の途中でなくても制限数「35球」に達した時点で投手 A は降板となる。

以上

<様式 A >

※試合毎の投球数は、
様式 Bより転記する。

投球数確認シート

【本部提出用】(試合終了後チームで保管)

大会名 2021年 第15回成田国際空港杯フレッシュマン大会

チーム名 :

日本リトルシニア中学硬式野球協会

		投 球 数							
球 場 名									
背番号	投 手 名	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
		第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦	準々決勝	準決勝	3位決定・決勝
1		球	球	球	球	球	球	球	球
2		球	球	球	球	球	球	球	球
3		球	球	球	球	球	球	球	球
4		球	球	球	球	球	球	球	球
5		球	球	球	球	球	球	球	球
6		球	球	球	球	球	球	球	球
7		球	球	球	球	球	球	球	球
8		球	球	球	球	球	球	球	球
9		球	球	球	球	球	球	球	球
球場責任理事(役員) 確認サイン									
球場責任審判員 確認サイン									
監督 確認サイン									

【投球数制限】

- ① 1日最大**90**球以内とし、連続する2日間で**130**球以内とする。連続する2日間で**90**球を超えた場合、3日目は投球を禁止する。
- ② 3連投(連続する3日間)する場合は、1日目と2日目の1日の投球数を**45**球以内(1日目または2日目に**45**球を超えた場合、3連投はできない)とし、3日目の1日の投球数を**40**球以内とする。
なお、4連投(連続する4日間)は禁止する。
- ③ 大会中は1日**90**球投球後、翌日投球を休めば3日目は**90**球の投球可。
- ④ 打席の途中で制限数に達した場合、当該打者の打席終了までは投球を認める。ただし、制限数を超過した球数は投球数にカウントし、翌日の投球可能数から差し引く。なお、連投最終日は制限数に達した時点で降板となる。【3連投(連続する3日間)の場合は適用しない】
- ⑤ 打者に対して投じた投球がバークとなった場合は、投球数にカウントす

- る。また、12秒・20秒ルールに抵触して課せられたボールは投球数にカウントしない。
- ⑥ 申告敬遠は投球数にカウントしないが、敬遠に至るまでに実際に投じた投球はカウントする。また、雨などで特別継続試合になった試合も投球数にカウントする。
- ⑦ 異なる大会であっても、連日投球する投手は、統一ガイドラインに則った投球数制限で投球するようお願いします。

【本シートの運用方法】

- ① 試合終了後、本シート(原本)に投球数を球場責任審判員が記入・サイン後、球場責任理事(役員)及び、監督へ確認を求め、サインを受ける。
- ② 監督は、サインされた本シート(原本)を次の試合まで保管する。
- ③ 監督は、次の試合開始前に本シート(原本)とコピー2部を大会本部へ提出する。
注) 連戦の場合は試合前の攻守決定時に投球数確認シートを相手チームに開示する。
- ④ 鉛筆での記入と複写したシートは、原本としては無効とする。

<様式 B> (1試合用)

投球数確認シート

【責任審判員保管(試合終了後)】

日本リトルシニア中学硬式野球協会

大会名 : 2021年 第15回成田国際空港杯フレッシュマン大会

チーム名 :

試合日 : 年 月 日 (第 試合)

球場名 :

< 記入例 >		※上段：投球数を正の字で記入 ※下段左：その回の投球数 ※下段右：累計の投球数											
背番号	投手名	投球数	一	二	三	四	五	六	七	TB-1	TB-2	TB-3	合計
1	日本 一郎	42 球	正正正	正正正	正正								42 球
			15 / 15	17 / 32	10 / 42	/	/	/	/	/	/	/	

【 記入欄 】													
背番号	投手名	投球数	一	二	三	四	五	六	七	TB-1	TB-2	TB-3	合計
1		球	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
2		球	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
3		球	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
4		球	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
5		球	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球

球場責任理事 (役員) 確認サイン

球場責任審判員 確認サイン

監督 確認サイン

【投球数制限】

- ① 1日最大90球以内とし、連続する2日間で130球以内とする。連続する2日間で90球を超えた場合、3日目は投球を禁止する。
- ② 3連投 (連続する3日間) する場合は、1日目と2日目の1日の投球数を45球以内 (1日目または2日目に45球を超えた場合、3連投はできない) とし、3日目の1日の投球数を40球以内とする。4連投 (連続する4日間) は禁止する。
- ③ 大会中は1日90球投球後、翌日投球を休めば3日目は90球の投球可能。
- ④ 打席の途中で制限数に達した場合、当該打者の打席終了までは投球を認める。ただし、制限数を超過した球数は投球数にカウントし、翌日の投球可能数から差し引く。なお、連投最終日は制限数に達した時点で降板となる。
【3連投 (連続する3日間) の場合は適用しない】

- ⑤ 打者に対して投じた投球がバークとなった場合は、投球数にカウントする。
また、12秒・20秒ルールに抵触して課せられたボールは投球数にカウントしない。
- ⑥ 申告敬遠は投球数にカウントしないが、敬遠に至るまでに実際に投じた投球はカウントする。また、雨などで特別継続試合になった試合も投球数にカウントする。
- ⑦ 異なる大会であっても、連日投球する投手は、統一ガイドラインに則った投球数制限で投球するようお願いします。

【本シートの運用方法】

- ① 試合終了後、本シート (原本) に投球数を球場責任審判員が記入・サイン後、球場責任理事 (役員) 及び、監督へ確認を求め、サインを受けて、責任審判員が保管する。
- ② 鉛筆での記入と複写したシートは、原本としては無効とする。

投球数制限下での理事及び、審判員の試合前 / 試合中 / 試合終了後の流れ

日本リトルシニア中学硬式野球協会

1. 試合前におけるメンバー表、選手登録証等の監督からの受理（理事及び、審判員）

監督からメンバー表、選手登録証等を預かる際、大会1回戦のチームの監督に「投球数制限を適用」する旨を念のため伝える。

2回戦以降は、監督から投球数確認シート(様式 A)を預かった際に、理事及び、審判員は各投手の本日の投球可能数を確認しておく。

2. 試合前の攻守決定及び、メンバー表交換（理事及び、審判員）

審判員より試合は「投球数制限を適用」する旨、両チームの監督及び、主将に伝える。

各イニングの表及び、裏が終了した時に投手の投球数をアナウンスすることを伝え、異議がある場合は速やかに球審に申し出てもらうことを監督にお願いし、投手が第一投を投じた後は異議を唱えることはできないことを伝える。

(特に、打者に対して投じた投球がボークとなった場合、公式記録の上では投球数にカウントしないため誤差が生じることとなる)

3. 試合中の投球数管理（理事及び、審判員）

投球数のカウントは間違いの無いよう、2名体制で行う。

放送係は各イニングの表及び、裏が終了した時に「〇〇投手、この回の投球数は〇〇球、累計で〇〇球です」とアナウンスを入れる。

監督から球審に異議の申し出があった場合は、控え審判員及び、記録員、ならびに理事に確認して、正しい投球数を速やかに決定し解決を図る。

4. イニング途中での投手交代（理事及び、審判員）

投手交代時に放送係は選手交代のアナウンス後、「このイニングの〇〇投手の投球数は〇〇球で、累計〇〇球でした」とアナウンスを入れる。

監督から球審に異議の申し出があった場合は、上記の3. と同様、正しい投球数を速やかに決定し解決を図る。

5. 投球数制限に近づいた時（理事及び、審判員、ならびに記録員）

次の投手が準備投球をしていない時は、「そろそろ投球数制限に近づいていますが準備されていますか」と、監督に確認する。

投球可能数が残り5球になった時点で、「〇〇投手の投球可能数は残り5球です」と、アナウンスを入れる。

6. 試合終了後（理事及び、審判員、ならびに記録員）

試合終了時もイニング終了時と同様に、「このイニングの〇〇投手の投球数は〇〇球で、累計〇〇球でした」とアナウンスを入れる。

投球数を記入済みの投球数確認シートの原本(様式 A及び、B)に球場責任審判員がサイン後、球場責任理事(役員)及び、監督へ確認を求め、サインを受ける。投球数確認シートの原本(様式 A)は監督に返却し、投球数確認シートの原本(様式 B)は責任審判員が保管する。

万が一、投球数について監督から異議の申し出があった場合は、上記の3. 及び、4. と同様、正しい投球数を速やかに決定し解決を図る。

以上